

tochondrial DNA polymorphism in Japanese monkeys, *Macaca fuscata*. Jpn. J. Genet., 61: 345-359.

- 3) Ishida, T., Yamamoto, K., Shotake, T., Nozawa, K., Hayami, M., and Hinuma, Y., (1986): Field study on the infection of human T-cell leukemia virus among African primates. Microbiol. Immunology, 30: 315-321.
- 4) 天野 卓・並河鷹夫・庄武孝義・H.W. Cyril (1986): スリランカにおける水牛の血液蛋白多型。在来家畜研究会報告, 11:117-128.
- 5) Wada, K., Chenpei Xiong and Qishan Wang (1986): On the distribution of Thibetan and Rhesus monkeys in southern Anhui, China. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 5:79-94.

総 説

- 1) 野澤 謙 (1986): 東および東南アジア在来家畜の起源と系統に関する研究。在来家畜研究会報告, 11:1-35.
- 2) 野澤 謙 (1986): 哺乳動物の遺伝的変異性と集団構造。今堀・木村・和田編“統分子進化入門” pp57-82, 培風館。

研究報告・その他

- 1) 峰澤 満 (1986): 新世界ザルの系統と分化。霊長類研究, 2:30-35.
- 2) 峰澤 満 (1985): 新世界ザルの種分化と氷河期の森林の退縮。モンキー, 29:28-34.
- 3) 峰澤 満, 後藤俊二, 松沢哲郎, 東 滋 (1986): サル類の学術利用の実状に関するアンケート調査。霊長類研究, 2:55-65.
- 4) 和田一雄 (1985): チベットモンキーの分布について。モンキー, 29:6-13.
- 5) 和田一雄 (1985) チベットモンキーの生態。モンキー, 29:14-18.

学会発表

- 1) 庄武孝義・早坂謙二・大澤秀行・野澤 謙 (1986): パタスモンキーとサバンナモンキーの遺伝的変異性。第40回日本人類学会(福

岡)。

- 2) 早坂謙二・宝来 聡・庄武孝義・野澤 謙・松永 英 (1986): ミトコンドリアDNAからみたマカク属3種の系統関係。第40回日本人類学会(福岡)。
- 3) 早坂謙二・宝来 聡・庄武孝義・野澤 謙・松永 英 (1986): ニホンザルのミトコンドリアDNAの制限酵素による解析。第2回日本霊長類学会(名古屋)。
- 4) 竹下 修・下元美佳・庄武孝義 (1986): シンオザル (*Macaca silenus*) ヘモグロビンのアミノ酸配列。第40回日本人類学会(福岡)。
- 5) 峰澤 満・原田正史 (1986): 中央ボリビア産アカホエザル (*Alouatta seniculus sara*) の細胞遺伝学的研究。第2回日本霊長類学会(名古屋)。

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大澤秀行・森 明雄・星野次郎¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大澤秀行・森 明雄・星野次郎

西アフリカ・カメルーン国南部の熱帯多雨林においてマンドリルの採食生態, コミュニケーション, 社会構造の研究が継続中であり, さらに同所的に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。持ちかえった資料の分析については餌植物の分布様式と, サルによるホームレンジの利用などの解析が進められ, 異種のサルによる混群現象の要因の解明をめざしている。

同国北部の乾燥サバンナにおいてはパタスモンキーの調査を行っている。パタスモンキーは単雄群型の社会をもち, その生活様式はサバンナに適応していると考えられている。現在, その社会変動とくにリーダー雄の交代のメカニズム, および採食生態からみた乾燥地適応の研究を進めている。さらに, 同所的に生息するサバンナモンキーや多雨林の種との生活様式の比較によって, 霊長類各

- 1) 非常勤講師

種の異なる環境への適応の様式を明らかにしようとしている。

2) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり、詳細な人口学的パラメーターを算出し、生命表を完成しつつある。このような個体群の変動量の把握と同時に、採食量の調査を林内追跡によって開始した。一方、霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され、各社会階層との関連において追求されている。

幸島群においては、これまで行ってきた個体の体重変動の継続調査の結果を採食行動に関する資料と関連させながら分析を進めている。

3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

杉山幸丸

ハヌマンラングールで最初に確認された野生動物(哺乳類)社会における種内子殺しの近因と遠因、その相互関係を、野外調査を交えながら理論的に考察している。

4) 西アフリカにおけるチンパンジーの行動生態学的研究

杉山幸丸

西アフリカ・ギニアにおける野生個体群の長期におよぶ断続的現地調査によって、その個体群動態と社会構造の把握に努めるとともに、野生チンパンジーの文化的行動、特に道具使用における地域差に注目し、カメルーンとコートジボアールにおける現地調査も含めて広域文化圏形成の観点から、全分布域の資料の分析を進めてきた。

5) 霊長類の社会構造に関する理論的研究

河合雅雄

霊長類の社会構造について原猿から類人猿までを通覧し、ホミニゼーションとの関連において考察を進めているが、今年は1夫1妻制度社会から重層社会までを扱い総説としてまとめた。

6) ニホンザルのメスの順位形成のメカニズムの研究

森 明雄・渡辺邦夫

幸島群における、メスの順位の変遷を、継年的に分析し、順位がどの程度維持・継承されるのかを調べた。また家系順位、姉妹間の順位関係が、川村の順位形成に関する仮説に従っているのかど

うかの検討をおこなった。

総 説

- 1) 河合雅雄(1986):一夫一妻制の社会,サルからヒトへく第Ⅱ部-8>。創造の世界, 58:112-139. 小学館。
- 2) 河合雅雄(1986):単雄群の社会構造と子殺しく第Ⅱ部-9>。創造の世界, 59:124-158. 小学館。
- 3) 河合雅雄(1986):ゴリラの社会に家族の起源を探るく第Ⅱ部-10>。創造の世界, 60:118-155. 小学館。
- 4) 河合雅雄(1986):母系社会と父系社会への道く第Ⅱ部-11>。創造の世界, 61:152-176. 小学館。

論 文

- 1) Sugiyama, Y. and Koman, J.(1987): A preliminary list of chimpanzees' alimentatation at Bossou, Guinea. Primates, 28(1): 133-147.
- 2) 杉山幸丸(1987):霊長類社会の多様性を適応の観点から考える。季刊人類学, 18(1):3-46.

研究報告・その他

- 1) 杉山幸丸(1986):野生ザルは本当に減っているか。霊長類研究, 2:74.
- 2) 杉山幸丸(1986):チンパンジーの文化。ニュートン, 6(2):44-51.
- 3) 杉山幸丸(1986):ボッソウ村の人と自然。発達, 27(7):85-94.
- 4) 杉山幸丸(1986):道具文化圏をつくる野生チンパンジー。アニマ, 167:87-91.
- 5) 杉山幸丸(1986):動物実験と動物愛護。日本の科学者, 22(1):40-41.
- 6) 大沢秀行(1986):動物たちのサバンナ。ニュートン, 7(2):12-35.

学会発表

- 1) 杉山幸丸(1986):チンパンジーの文化圏形成。第33回日本生態学会大会。
- 2) 杉山幸丸(1986):ボッソウ生息野生チンパンジーの社会構造の特徴。第2回日本霊長類学会大会。
- 3) Sugiyama, Y.(1986):A ten-year summary of population dynamics for chimpanzees

at Bossou, Guinea. International Symp.
on "Understanding Chimpanzees",
Chicago.

- 4) 大沢秀行 (1986): パタスモンキーの社会変動; リーダー雄の交代。第33回日本生態学会大会。
- 5) 大沢秀行 (1986): パタスモンキーの社会構造と社会変動。第2回日本霊長類学会大会。
- 6) 大沢秀行 (1986): チャド湖南岸のパタスモンキーの社会構造。第23回日本アフリカ学会大会。

生理研究部門

大島 清・目片文夫・林 基治・野崎眞澄・
清水慶子¹⁾

研究概要

- 1) マカクザル胎児の感覚系発達に関する生理学研究

大島 清・清水慶子

マカクザルの胎生各期における感覚系の発達を電気生理学的・生化学的に解明する。本年度は聴覚系について研究を行った。

- 2) サルにおける銅付加子宮内避妊器具の避妊効果及び安全性

大島 清・清水慶子

- 3) ニホンザルの繁殖期の季節性のメカニズムの神経内分泌的研究

大島 清

- 4) サルとヒトの比較セクソロジー

大島 清

- 5) 血管平滑筋細胞膜の電気生理学的研究

目片文夫

(I)パッチクランプ法による平滑筋細胞膜の単一イオンチャネル電流の熱力学的解析。

(II)血管内皮細胞より放出される血管弛緩物質の細胞膜に対する作用機序の解析。

- 6) サル脳内神経活性物質の分布特性

林 基治

本年度は神経ペプチドとしてCCK-8及び神経成長因子に注目し、これらの物質に対する抗血清を作成した。またCCK-8に対してラジオイムノ

アッセイ法を確立しサル大脳皮質各機能部位内の分布特性について調べた。

- 7) サル脳内神経活性物質の個体発生

林 基治・山下晶子²⁾・清水慶子

P物質、ソマトスタチン、VIPのサル大脳皮質内における個体発生について免疫組織化学法を用いて調べた。

- 8) 霊長類の生殖リズムの発現機序

野崎眞澄

霊長類の生殖リズム、特にメスニホンザルの季節繁殖リズムの発現機序を明らかにする目的で、

(I)日長の単独操作及び日長と環境温度の同時操作

(II)上記環境人工操作下におけるメラトニンの持続投与が生殖内分泌機能に及ぼす影響について調べた。

- 9) 生理活性ペプチドの系統発生

野崎眞澄

下等脊椎動物から霊長類に至る種々の動物を用いて、脳下垂体-腸管-膵臓ペプチドの局在性や系統発生的意義ならびに遺伝子の発現機構について、特にLHRHとソマトスタチンについて調べた。

- 10) 超音波診断装置によるマカク属サルの妊娠診断及び胎児発育診断

清水慶子

超音波診断装置を用いマカク属サルの早期妊娠診断及び胎児発育指標の作製を行った。

総 説

- 1) 大島 清 (1986): 胎児は砂漠の夢を見る。現代思想 9月号: 109-119。

- 2) 大島 清 (1986): 世紀末の病。光文社。

- 3) 大島 清 (1987): 性行動の変化とSTD。周産期医学, 17(3):407-410。

- 4) 目片文夫 (1986): 平滑筋細胞膜の単一カリウム電流。動物生理, 3(1):18-19。

- 5) 林 基治 (1987): ノーベル賞と神経成長因子。BIOmedica 2:90-93。

論 文

- 1) Nozaki, M. and Oshima, K. (1986): Seasonal change of gonadotropic function